

第4回筑波大学・アジア太平洋経済協力（APEC）国際会議

公開シンポジウム開会式挨拶

2010年2月20日（土）9：30

国連大学エリザベスローズ国際会議場

芝田課長ご挨拶

文部科学省大臣官房国際課長の芝田でございます。

第4回筑波大学・アジア太平洋経済協力国際会議「授業研究による算数・数学教育の革新—国際調査上位国の評価法改善と開発途上国に対する国際教育協力に係る教材開発—」公開シンポジウムの開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日、中村滋2010年APEC高級実務者会合議長、Dr. Benjualug Namfa タイ教育省初等中等教育局教育基準課長、Alan Ginsberg APEC人材養成ワーキンググループ・リードシェパード、及び山田信博筑波大学長、をはじめとするAPEC域内から多数の関係の皆様のご参加の下、本シンポジウムが開催されますことをうれしく思います。

筑波大学は、APEC人材養成ワーキング・グループ教育ネットワークにおいて、タイ・コンケン大学と共に2005年から「授業研究による算数・数学教育の革新」のための共同研究事業を実施しています。

本事業は、算数・数学の授業研究を通じ、より良い授業の方法を模索するものです。日本では従来から授業研究を行っており、近年、教員の研修、授業の質の向上にとって、非常に効果的であることが世界的にも認識されてきているところです。

本事業は、モデル授業のビデオテープをAPECの情報共有サイトに提供してAPEC加盟エコノミーで活用できるようにする等、筑波大学とタイ・コンケン大学の強力な連携のもと、着実に成果を上げてきているところです。また、本事業の実施に伴い、タイ・日本のみならず、APEC域内に専門家のネットワークが広がりつつあると聞いております。

教育は、人々の生活を豊かにし、社会・経済を発展させる上で極めて重要なものです。とりわけ、数学的な思考は合理的・論理的に考える力を育成し、技術開発や情報データの使用によって機能するグローバル経済では、数学の知識が重要な役割を果たします。APEC教育大臣会合においても数学は重点分野として挙げられており、算数・数学は個々人の成長及び経済発展の基盤となる教科の一つであることは間違いありません。また、数学教育は、国固有の文化を越えてお互いに学び合うことができる要素を多く持っています。

今回の会議では、数学の評価法の改善と教材開発について議論がされると伺っております。公開シンポジウムでは、回答を導き出すプロセスを評価することの重要性や、問題解決的な学習指導法、問題解決プロセスを指導するための教師用教材の開発について、様々な観点から基調講演をいただきます。会議に参加される方々が、本会議の成果を各エコノミーに持ち帰り、各エコノミーにおいて実践に生かされることを祈念しております。